

1. サマースクールの報告

Part 1 : 8月25日ー 8月28日, 高橋・曾根(北大環境研・院)両氏の案内のもと, 北海道大雪山で行われた. 参加者: 8名. ルートと見学事項は, 次のとおり.

25日: 白雲岳小泉岳鞍部集合(正午)→北海平(現成の凍結割れ目)→白雲岳(火口内のアースハンモックと凍結割れ目)→白雲小屋泊

26日: →高根が原(溶岩台地縁辺部に発達する地すべり地)→忠別岳(岩塊流)→忠別小屋

27日: →五色岳(湿原)→化雲岳(高山植生の立地状態)→トムラウシ山北方(見事な礫質構造土と岩塊斜面)→ヒサゴ小屋泊

28日: →トムラウシ山山頂→トムラウシ温泉(Part 2へ合流)

忠別岳の岩塊流については, 岩塊の生産と移動の時期・原因について活発な議論が交わされた. また, トムラウシの礫質構造土には参加者全員が感動の面もちで見入っていた. 全行程天気にも恵まれ, 高橋・曾根両氏の超人的荷上げのおかげで食事よし, 酒よしと申し分のないサマースクールPart 1であった.

Part 2 : 8月28日ー 9月 1日, 曾根・山本(北大環境研・院), 小野(北大環境研), 宮田(地質調査所), 高倉(白樺高校), 隅田(日大・応用地学・院)各氏の案内で北海道東部を中心に行われた. 参加者: 23名. ルートと見学事項は, 次のとおり.

28日: 北大環境研集合(A.M.10)→日勝峠(斜面堆積物の移動時期)→トムラウシ温泉泊

29日: →糠平湖(1985年夏に発見された幌加付近の永久凍土)→帯広市街南西(恵庭-a火山灰でできた古砂丘, 恵庭-aのインボリューション)→帯広畜産大構内(アースハンモック=十勝坊主)→川西町(恵庭-a古砂丘とSpfa-1)→帯広営林署愛林寮泊

30日: →帯広畜産大(凍土現象の研究に関わる施設)→泉川(根釧原野虹別南方, 完新世テフラのインボリューション)→西春別原野(最終氷期後半のソイルウエッジ)→上西春別北東(完新世テフ

ラのインボリュージョン) → 別海町キャンプ場泊

31日: → 別海市街北西(最終氷期のインボリュージョン, Aso-4
火山灰?の発見) → ケネヤウシュベツ川(別海市街南方, 雌阿寒-a
火山灰降下<200y. B.P.>以降に形成されたアースハンモック) →
春別川(福山, 上春別面を作る礫層中のソイルウエッジ) → 上春別
北西(上春別面を作る礫層上部のインボリュージョン) → 裏摩周 →
中斜里南西及び南方(更新世末期の古砂丘とインボリュージョン)
→ 札弦南東方(火山噴出物起源の砂丘堆積物?中にみられる奇奇怪
怪の化石ウエッジ状構造) → 斜里町立知床博物館宿舍泊

1日: → 小清水町共和(Spfa-1などのインボリュージョン): 解
散

随所でソイルウエッジカストとアイスウエッジカストの認定に関
する問題や, 密度逆転層による周氷河インボリュージョンの形成モ
デルと現実の露頭でみられるインボリュージョンとの関係などにつ
いて活発な議論が行われた。

2. 10月例会のお知らせ

吉川虎雄先生に, 地理学会会長講演(地理評, 1984, 57(Ser
.A), no.10.), 『湿潤変動帯の地形学』(東大出版会)等で若干触
れられている侵食面の形成と周氷河作用の問題のその後について,
スライドを混えながら話し頂くことになりました。事前に前記の
印刷物もご覧になっておかれると良いかと思います。

寒冷地形談話会 10月例会

とき : 10月25日(土) P.M. 2:30-4:30

ところ: 東京大学理学部2号館2階 地理学教室学部講義室

(地下鉄丸の内線本郷三丁目下車徒歩10分赤門近く)

吉川虎雄(東京農業大・総合研究所): ニュージーランド

北島ラウクマラ半島における侵食面の形成について

なお, 11月例会は11月8日(土)を予定しています。